

**教科目名 哲学特論 I (Special Lecture on Philosophy I)****専攻名・学年** : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ◎科目)**単位数など** : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)**担当教員** : 堀 栄造**授業の概要**

現代哲学の主潮流の一つを成すドイツの哲学者エドムント・フッサーの創始した現象学の学問的方法論である現象学的還元が、どのように着想され、どのような構造をもち、どのような意義をもつかを学ぶ。授業全般を通じて、学問にとっての方法論の重要性を理解させるとともに、哲学的思考力の養成に努める。

**達成目標と評価方法****大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)**

- (1) 学問的方法論は、学問にとって生命線ともいべきものである。フッサーの現象学の学問的方法論の形成を学ぶことによって、学問にとっての方法論の意義や重要性を理解する。(定期試験)
- (2) 哲学的文章を通して西洋の思考および西洋的文化に接し、地球的視点から多面的に物事を考える力を身に付ける。(定期試験)

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	心理学主義的立場	○心理学主義的立場について理解できる。	【理解の度合い】
2	反心理学主義的心理学	○現象学的イデア学について理解できる。	
3	反心理学主義的イデア学	○還元思想の萌芽の生成について理解できる。	
4	現象学的イデア学	○実在的次元からの脱却の萌芽について理解できる。	
5	還元思想の萌芽の生成	○現象学的反省の可能性について理解できる。	
6	実在的次元からの脱却の萌芽		
7	現象学的反省の可能性		
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説 空想における反省	○現象学的還元の着想について理解できる。	【理解の度合い】
10	現象学的還元の着想	○現象学的統覚について理解できる。	
11	現象学的統覚	○現象学的エポケーの着想について理解できる。	
12	現象学的エポケーの着想	○反省領域全体の非顕在化について理解できる。	
13	反省領域全体の非顕在化		
14	志向的構成と存在的現象		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
<b>履修上の注意</b>	ノートをしっかりと取り、十分に復習すること。		【総合達成度】
<b>教科書</b>	堀栄造著,『フッサーの脱現実化的現実化』,晃洋書房,2006年。		
<b>参考図書</b>			
<b>自学上の注意</b>	授業内容をそのつど十分に復習しておくこと。		
<b>関連科目</b>	哲学特論II, 哲学概説, 倫理。		
<b>総合評価</b>	2回の定期試験により評価する。評価が60点以上を合格とする。再試験は、総合評価が60点に満たない者に対して実施する。	【総合評価】	点